

日経産業新聞

2013年(平成25年)

9月 4日

水曜日

N I K K E I B U S I N E S S D A I L Y

マッサージチェアで価格が40万円以上する高級機種の新製品が相次いでいる。左右のもみ玉の力加減をそれぞれ変えられる機能を搭載した製品や、長い時間、もみほぐしを楽しめるように、リクライニングやもみ玉に工夫をこらした製品などが登場。顧客のさまざまな要望にきめ細かく応え、一段の心地よさを実現しようとして、健康機器各社が知恵を競っている。

マッサージチェア

ファミリーイナダ（旧ファミリ、大阪市）が8月1日に発売した「ダブル・エンジン FMC-WG1000」（店頭

想定価格は45万円前後）

は、左右のもみ玉がそれぞれ独立して動くのが特徴だ。右半身だけを強めにもむなどの設定ができる。従来機では左右の動きは連動しており、片方ずつの調節はできなかった。技術支援室の近藤秀志室長は「より細かい要望に応えられるようにした」と話す。

足側にも、表面にもみ玉がついた車輪を搭載。車輪が回転しながら上下に移動して、足首からもの裏までをもみほぐす。足側はエアバッグによるマッサージが一般的。もの裏側までもみ玉によるマッサージができる機種は珍しいという。首から足先まで140センチの広範囲をマッ

家電量販店には新型機が並ぶ（ビックロ新宿東口店）



リクライニング工夫

フジ医療器



長時間の使用に適した機器の構造や動作を追求

リクライニングして倒すと、腰の部分が落ち込んでしまい、長い時間使うと疲れてしまうなどの問題があったという。

新商品では、これまで低速、中速、高速の3種類だったもみ玉の回転速度に、超低速「スローハンド」モードを追加した。低速が3秒に1回転するところを、超低速では5秒1回転に設定。長時間使用しても痛くならないように、もみの刺激を弱

パナソニック

人の手に近い動き

めた。パナソニックは9月1日、「リアルプロ EPM-A74」（同45万円前後）を発売した。2012年に発売した最上位機種「リアルプロ EPM-A73」の機能を継承しており、センサーとモーターを組み合わせて、人の手によるマッサージの動きに近づけた。

センサーが体の形や硬さを読み取り、もみ玉の動きを決定して、モーターを制御する。1秒間に2000回指示信号を出すことで、力加減を細かく調整できるようした。「深く、強く、細かくもむことで、凝りを芯までほぐせる」（スモールアブライアンズグループの万谷範崇氏）という。



ヒーター付きのもみ玉も搭載、体に伝わる温度を常にセ氏42度になるよう調整して、手のぬくもりを再現した。

ファミリーイナダ

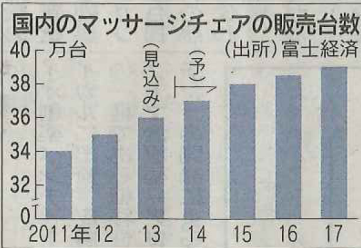
ージで、体全体のこりを解消する。フジ医療器（大阪市）が8月1日に発売した「サイバーリラックス AS-960」（同47万円前後）は「休息」がテーマとされていることを念頭に、30分の自動コースを搭載するなど、長時間の使用に適した機器の構造や動作を追求した。「凝りをはぐすだけでなく、リクライニングした際、背もたれが倒れると

凝りほぐす 機能多彩



足側にも、もみ玉がついた車輪を搭載

40万円以上の機種続々



調査会社の富士経済（東京・中央）によると、2013年の国内でのマッサージチェアの販売台数は前年比2・9%増の36万台の見込み。社会の高齢化などを背景に、17年には13年に比べて8%増の39万台と予想される。メーカー各社は買い替え需要や新規需要の取り込みを狙い、新機能の搭